Enviva は、持続可能な木質バイオマスに特化したグローバルなエネルギー企業です。
化石燃料を代替する熱及び電気を生成する木質ペレットの世界最大手の生産者です。

米国南部の森林

Enviva は、米国南東部で木質ペレットを生産しており、同地域のうち約**45%**にあたる約**9,900**万ヘクタールが健全なワーキング・フォレストに覆われています。ワーキング・フォレストとは、「樹木農家」が管理・経営する森林のことで、農作物と同様、定期的に伐採されています。
この地域のワーキング・フォレストは、その**2%**のみが毎年収穫され、残りの樹木の**98%**は引き続き成長し、炭素が蓄積されていきます。
土地所有者に対して植林あるいは再植林を促す市場インセンティブが働くことにより、Envivaが操業を行う地域の森林地は拡大しています。

持続可能性

- Enviva は、**Sustainable Biomass Partnership**：持続可能なバイオマス・パートナーシップ（**SBP**）、**Forest Stewardship Council**：森林管理協議会（**FSC**）、**Program for the Endorsement of Forest Certification**：**PEFC** 森林認証プログラム（**PEFC**）、**Sustainable Forestry Initiative**：持続可能な森林管理
イニシアティブ（**SFI**）等の世界の主要な森林管理団体の厳格な基準による認証を受けています。
- **Enviva**の木質ペレットは、高付加価値製品（例：家具や材木）として利用できない、従来の樹木伐採で生じる枝木等の副産物や残渣物である低品質木材を原料としています。
- Enviva は、自社の**Track & Trace™** プログラムにより透明性を確保しています。同プログラムでは使用する材木、収穫方法、および収穫場所に関する情報を詳細に把握することができ、**envivabiomass.com**で一連のデータが一般公開されています。

日本におけるエネルギー

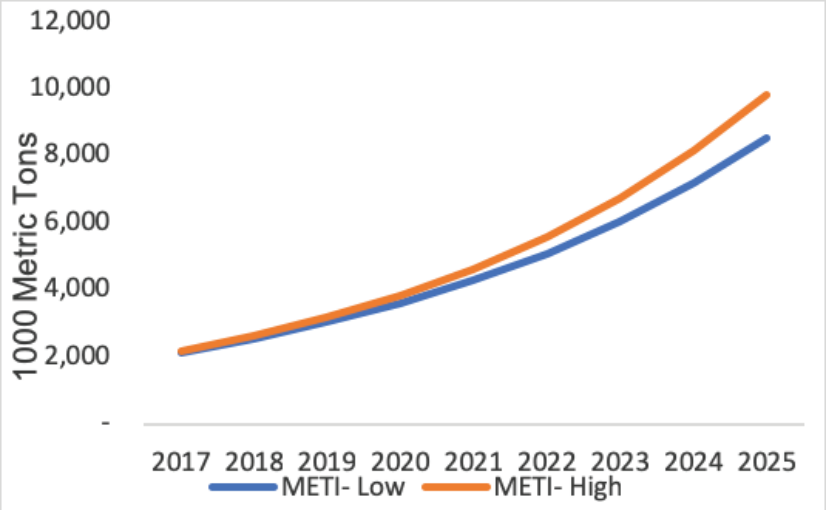
- 日本政府の最新のエネルギー基本計画では、再生可能エネルギーのうち**2%**をバイオマスが占めています。同計画では、バイオマスを含む再生可能エネルギーを主力電源と位置付けています。
- 再生可能エネルギーの利用を促進するため、**2012**年以降に固定価格買取制度（**FiT**）が導入されました。これは、以前の**RPS**を代替するもので、東日本大震災後の原子力発電からのシフトに強いインセンティブを与えるものです。

日本における活動

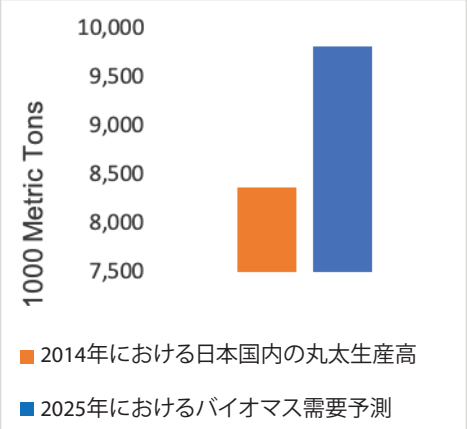
- Enviva は**2017**年に日本支社を開設し、パートナーやその他のステークホルダーと協業しながら、日本のエネルギー計画を支援しています。
- 2023年時点の長期契約数量は、年間200万トンを超える見込みであり、これにより日本市場で最大の木質ペレットのサプライヤーとなります。
- 主要顧客は国内の大手商社であり、信頼できる、良好な財務状況にある顧客と協働しています。
- 大規模な長期契約によって、高級木材やその他の高付加価値製品では使用されることのない、低品質木材を活用したバイオマス発電所の安定した運用が可能となります。
- このような契約は、日本国内の木質ペレット製造業者が製品を発電所に小規模販売することを可能にし、徐々にその供給能力を高めていくためのプラットフォームとなりえます。

2025年の需要予測：最大1,000万トンの石炭を代替[2]

日本国内におけるバイオマスの需要予測[1]



日本のバイオマス市場は輸入に依存する必要がある[3]



1. 長期エネルギー需給展望（METI、2015年7月）の計算による
2.「温室効果ガスインベントリのガイドライン」（IPCC、2006年）
http://www.ipcc-nggip.iges.or.jp/public/2006gl/index.htm
3. 国内材木総生産（製材、単板シート、合板、木質チップ）（農林水産省、2014年） http://www.maff.go.jp/e/data/stat/90th/index.html#11